

オペラ歌手

森  
麻季

Maki Mori

透明感のある澄んだ声、深い音楽性、華のある容姿——。プラシド・ドミンゴ氏に絶賛されて国際舞台にデビューし、世界のオペラハウスから声が掛かるオペラ歌手となった森麻季さん。しかし大輪の花となるまで、幾重にも成長してきた道程は平坦ではなく、飛躍を夢見て渡ったヨーロッパ留学では葛藤の日々も経験した。今、彼女の歌唱のなかには、日本人としての美しさと平和への祈りが共存する。歌にかける思いを、飾らない言葉で語っていただいた。

# 歌に祈りを込めて

## 荒波に自分を削られた留学の日々

——『音楽の友』誌がクラシック音楽に関して行う読者アンケートで、森さんが「好きな日本人声楽家」の第一位に選ばれました。おめでとございます。

森 ありがとうございます。私にご投票いただいた方々にも、お礼を申し上げます。

——クラシック音楽のファンだけでなく、テレビなどのメディアを通して森さんをご存じの方々も多いと思いますが、もともと声楽ではなくピアノを勉強されていたそうですね。

森 はい。音楽大学付属の小学校から高校まで、ピアノ科で学んでいました。高校生になって

初めて声楽に触れ、東京藝術大学に入学するときに声楽科に転科したんです。

でも、藝大はレベルの高い方々ばかりで……。ご家族が音楽関係にいらつしゃるとか、すでに声楽の知識の豊富な方々が多いのです。私はまだオペラも何も知らなくて、課題でいただくものをこなすだけで精いっぱい。卒業したら何か音楽に携わる仕事をしたいなどは考えていましたが、将来、声楽で舞台に立ちたいなんていう気持ちはみじんもなかったんです。

——プロへの希望を抱いて勉強されていたわけではなかったの

ですね。

森 オペラ歌手になりたいという夢を持って藝大に入学したわけでも全然なくて。音楽が好き、歌を歌うことが好きという気持ち、勉強するにつれて強くなりましたが、プロになると心に決めたのは、ずっと後のことです。

ミラノ留学中の一九九八年、「プラシド・ドミンゴ世界オペラコンクール」で思いがけず賞をいただき、ワシントン・ナショナル・オペラでデビューするきっかけとなりました。その初めての国際舞台でドミンゴさんをはじめ素晴らしい歌手の方々とご一緒し、いろいろ教えていただくなかで、私は「もっと勉強しなくちゃいけない、できればこの世界で歌っていきたい」と

思ったんです。

——そこに至るまで、特に留学時代は試練もあったそうですね。

森 生まれて初めてのイタリヤで、ミラノのヴェルディ国立音楽院へ受験に向かったのですが、学校が見つからない(笑)。日本から願書を出したとき、連絡先も住所も、試験がいつあるかさえも、教えてもらえなかったんです。自力でリサーチして、二日間かけて学校に辿り着くと、ちょうど試験が始まったところでした。それでも何とか試験をパスして学校に通うことになったんです。

私の留学時代は、いつもこんな毎日でした。自分から必要なものを求めて行動しない限り、一歩も先へ進めない。藝大時代には授業から試験まで、きめ細かな指導に



もり・まき●人気・実力ともに日本を代表するオペラ歌手。東京藝術大学、同大学院修了。文化庁オペラ研修所修了後、ミラノとミュンヘンに留学。ブラシド・ドミンゴ世界オペラコンクールを始め、数々の国際コンクールに入賞。小澤征爾、アッシュケナージ等著名指揮者や国内外の主要オーケストラと共演多数。ドレスデン国立歌劇場やトリノ王立歌劇場に出演など近年の海外での活躍も目覚ましい。9月11日東京オペラシティにてリサイタル～愛と平和への祈りをこめて～を行うほか全国各地でコンサートが予定されている。最新CD「アヴェ・マリア」(エイベックス・クラシックス)が好評発売中。オフィシャルホームページ <http://www.makimori.com/>

しても何の意味もないんじゃないかと、二〇代後半の頃は憂うつな気持ちになる日もありました。でも、つらい日々を過ごすうちに私は、自分自身に向き合うようになったんです。

なぜここまで音楽を勉強してきたのか。それは、やっぱり私は音

## 日本人らしく、世界の舞台に立つ

——現在の森さんは海外と国内の両方で活動されています。日本で上演されたドレスデン国立歌

劇場の「ばらの騎士」は私も拝見し、美しいゾフィー役に感動しました。これをドイツで拝見しても感動を味わえたとはいえないと思いますが、舞台に出演される側としては海外と国内で何か違いはありますか。

楽が好き、歌を歌うことが本当に好きだからだと。荒波に削られながら自分の「中核」がしっかりといていったのでしょうか。人間力が試されるような留学の日々が私の財産となって、その後タイミングよく運も開けた気がします。

ずっと受け身でしたが、そんな姿勢では通用しなかった。授業や試験どころか、レッスンをしていたく先生も自分で見つけなければいけないのです。

ただ、まだ先が見えない。音楽の世界は、留学したりコンクールで賞を取ったりしても、それが舞台につながるとは限りません。

日常生活でも、日本ではあり得ないことに次々にぶつかりました。銀行や郵便局で理不尽な扱いを受けたり……。日本を離れて初めて、それまでの生活がいかに恵まれていたかと気付くことばかりでした。

しかも、西洋のオペラは日本の歌舞伎に相当する芸術ですから、その伝統に異文化の人が入るには高い壁があるのです。歌舞伎の舞台で外国人が完璧に演じて見せても、やっぱり日本人には違和感があるでしょう。オペラでも同じです。日本人の私には容姿や異文化の壁があり、それは仕方ないな

——不安や焦りもありましたか。森 はい。小学校から音楽学校に通っていた私は、その時点で二〇年近く音楽を勉強していました。

と覚悟していましたが、その風当たりがかなり強かった。オペラに自分が必要とされていない、勉強

森 日本は自分の国ですし、国内の舞台のほうが安心して出演することができるかもしれませんね。海外の舞台に出るときは、契約書一つでも隅々まで確認する必要があります。国内と同じ準備では足りません。準備に準備を重ねても、「まだ足りないのでは」と、気を引き

縮めてかかる必要があります。そういう意味では、緊張感海外のほうが高いかもしれません。ただし、そこで私は欧米の方々に同調するのではなく、日本人の特性を活かしながら仕事をしたいと常に思っています。欧米の方って、演出家にちよつと指導されただけで「オレは帰る」みたいにカーッとなる人が多いんです(笑)。それだけ強い自負を持って仕事に向き合うからこそその行動なのですが、そういう欧米スタイルを日本人の私が進めなくても戦いモードになるだけで、私の良さまで殺してしまうような気がします。むしろ、指導に素直に耳を傾けたり、全体の協調性を大事にし

たりする日本人の美意識とか道徳観を持って仕事に向かうほうが、私にはいい。そのほうが私は周りに愛され、オペラの舞台という国際社会に適応できるはず、と信じているんです。

——日本人であることを忘れず、日本人の良さを発揮すれば、その価値を認めてくれる、ということですね。

森 ええ。忍耐強く取り組み自分の責任を果たすとか、周りと努力を重ねて一つのを創り上げていくのが、日本人の気質ではないでしょうか。それらは海外の方々より日本人のほうが優っているものであるように思います。音楽でも、もちろんビジネスの面においても、日本人はその気質を絶対になくさないほうがいい。

私は海外の舞台で一緒にした方々から「また仕事しようよ」と次の機会もいただいて、そうして一〇年以上、舞台で歌い続けることができています。一緒にした方々が私に日本人らしい気質を感じて、そこを愛してください。自負心の強い欧米やラテン系のソリストとぶつかったりしてきた方々は、日本人の



私と仕事すると、何かほっとしていただけるようです。そのあたりも次の機会に声を掛けてくださるきっかけになるのでしょうか。

——音楽ファンの多くは、舞台で歌う森さんの姿をもっと観たいと思っっているはずですが、最近では、高画質のテレビや映画館でオペラを上映したり、DVDなども発売されて、森さんの映像を拝見する機会は増えそうですが、こうした技術によるオペラ界の環境変化をどう見えていますか。

森 オペラを気軽に楽しめる環境

に変わるのとは、とてもいいですね。

オペラの公演は、オーケストラと合唱団、ソリスト、それに舞台装置や照明などの裏方で働く方々まで、何しろ大人数で行うので、その分、チケット代が高額になりますよね。海外のオペラハウスの引越し公演になると、大掛かりな移動代も掛かるためにチケット

——世界中で起こる天災や戦乱に対し、平和や安らぎをもたらす

## 音楽で祈りをささげ、希望を照らす

はさらに高くなり、なかなか手が届かない値段になることも少なくありません。オペラは敷居が高いイメージで見られることもあります。それを私は残念に思っています。でも、全くオペラを観ることなく人生を過ごすのは、寂しいです。テレビやDVDなどでオペラを気軽に観ていただいて、興味を持った方々が実際に生の舞台にも足を運んでくださるようになれば、嬉しいですね。また、オペラを初めて観るときは、そのあらすじを知らない、字幕を読むことに追われて舞台に集中できなくなると思うので、DVDなどを事前に観て予習しておく、と思います。ここが聴きどころだ、こんな素敵な場面もあるんだと知っておけば、当日の舞台をワクワクしてご覧になれるでしょう。そんなふうに映像を入り口にして新しい聴衆の方々がオペラに来てくださるよう願っています。

クラシック音楽の力に期待する人がたくさんいます。



森 クラシック音楽は何百年も  
の間、世界中で演奏され、受け  
継がれてきたものです。その作  
品はいずれも、無数の中から今  
日まで残った「ひと握りの傑作」  
ですから、どの時代にあっても  
普遍的な力を持つと私は思っ  
ています。もちろん、他のジャン  
ルの音楽も素晴らしいですが、  
オーケストラを含めて何百人も  
の演奏が調和する音楽は、聴い  
ている人の心にまで届くと思  
うのです。そして、その音楽を  
聴いている間は悲しい出来事を  
少しでも忘れることができる。そ  
うした普遍的な力がクラシッ  
ク音楽にはあると信じています。  
——二〇〇一年九月十一日にア

メリカで起きた同時多発テロの三  
日後、ワシントン・ナショナル・  
オペラで「ホフマン物語」に出演  
されたとお聞きしました。

森 劇場はテロに狙われた場所に  
近く、まだ街全体が不安に包ま  
れている中で、公演なんてできる  
だろうかと思っていました。一人  
も観に来てくれる方がいるなら  
そのお客様が一瞬でもテロ事件の  
ことを忘れられるように演じよ  
うと、出演者が一丸となって舞台に  
臨みました。それで「ありがとう」  
と、聴衆の方々から言葉を次々に  
いただいて……音楽は素晴らしい  
力があると実感した舞台でした。

——今年、日本では東日本大震  
災が起きました。

森 「九・一一」は人が起こした災  
害でした。しかし東日本大震災は  
人の力ではどうにもならない、自  
然災害です。今までの日本で、い  
や世界の中でも、これほどの深い  
悲しみを私は見た記憶がありません。  
ん。

今、日本中ががんばろう、復興  
しようと思いを一つにしていま  
す。震災直後はコンサートやイベ  
ントの中止も相次ぎました。でも

こういう時だからこそ、誰もが意  
気消沈してはいけない、元気を  
出さなければいけないと思います。

音楽の力で何かできることはな  
いかと考えてくださる主催者の方  
もいて、そのおかげで震災後、私  
は横浜や神戸でコンサート活動  
をさせていただきました。それは、  
特別な公演になったと思います。

私にできる小さな祈りとして  
歌った「アヴェ・マリア」。震災  
で亡くなられた方々へ追悼を込  
めて歌った「レクイエム」。私を含  
め、演奏と会場の方々に気持ちを  
一つにして祈ることができたです。  
今の日本だからこそ、奏でられた  
音楽でした。私一人が会場の一人  
ひとりにできることは小さいかも  
しれません。だけど音楽を愛する  
みんなの心で祈りを合わせると、  
そこに希望が生まれるのですね。  
——公演では募金活動もされた  
とお聞きました。

森 公演後、被災地への義援金に  
本当に多くの方々にご協力をい  
ただいています。出演者とスタッ  
フは皆、感謝の気持ちでいっぱい  
です。

でも、その一方で寂しいのは、

震災で日本の行く末に不安を抱  
いてか、海外の投資家が一斉に日  
本の資産を売ったり、まるで波が引  
くかのように日本から外国人が離  
れていったりしていることです。  
そのような方々も、ご自身の心配  
だけでなく、被災地の方々へも少  
し心を向けてくださればと思いま  
す。

——今後、どのような活動に力  
を入れたいとお考えでしょうか。

森 二年前の八月五日、広島原爆  
の日の前夜に、広島で「平和の夕  
べ」というコンサートに出演しま  
した。広島平和記念公園にあるホ  
ールでフォーレの「レクイエム」  
を歌ったのですが、それ以来、平  
和と復興を歌で祈る活動も続け  
ていきたいと思うようになりまし  
た。今年九月十一日、「九・一  
一」から一〇年、東日本大震災  
からちょうど半年の日に東京でコ  
ンサートを開きます。今なお世界  
では戦争が終わらず、日本は震災  
から立ち上がるうとしていること  
です。早く平和と復興が訪れる  
ことを願って、歌います。心より  
祈りを込めて。

(聞き手／前情報サービス局長・大川昌利)